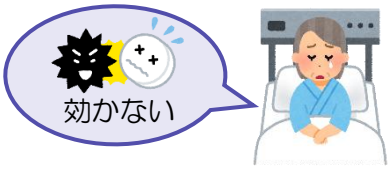
県北管内感染症ニュースレター

令和８年度　第８号

なぜ？処方薬を自己判断でやめてはいけない理由

１１月は「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」です。いま世界中で、抗菌薬の効かない「耐性菌」が増加しています。国内（令和元年）では、薬剤耐性菌による「菌血症（血液中に細菌が存在する状態）」患者の推定死亡者数は、年間 8,000 人にのぼります。今回は、「薬剤耐性のしくみ」等を詳しく紹介します。抗菌薬に対する正しい知識を持ち、正しい使い方をすることで、薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぎましょう！

薬剤耐性（AMR）のしくみ



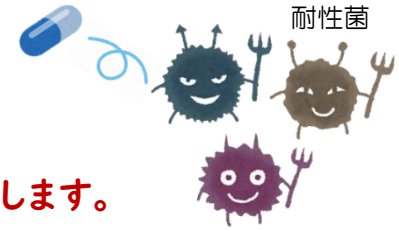
細菌が原因の感染症に有効なのが、細菌を殺したり、その増殖を抑制する「抗菌薬」です。その**「抗菌薬」が効かなくなってしまう現象を「薬剤耐性」といいます。**細菌は「抗菌薬」に対してどのように耐性化するのでしょうか。「抗菌薬」は人にとっては救世主ですが、細菌にとっては脅威です。細菌は「抗菌薬」から様々な方法で逃げようとします。

細菌が抗菌薬に対抗する方法（耐性化）

①細菌を覆う膜を変化させたり、細菌自体をネバネバの液で覆い、**薬の進入を阻害する**
②薬が細菌に侵入する前に**化学反応で分解する（不活化）**
③細菌に入ってきた**薬を外に出してしまう**
④DNA や RNA の変異によって**標的を変化させ、薬の効果が出ないようにしてしまう**



どうして「薬剤耐性菌」が増えるの？



例えば「抗菌薬」を自己中断した場合、薬の量が不十分となり、
やっつけられたはずの「耐性菌」が生き残り、常在菌ばかり減少します。
「耐性菌」の活躍を抑える常在菌がいなくなることで、「耐性菌」が増殖してしまいます。
こうして増殖した「耐性菌」は、周囲の人々にも伝播していきます。



薬剤耐性（AMR）の拡大を防止しよう！

薬剤耐性の拡大を防ぐためには、そもそも感染症にかからないことが重要です。
また、感染症にかかって病院を受診する際には、医師が適切な診断や処方ができるよう、自分の症状を詳しく説明することも大切です。

感染症予防

- ●手洗い
- ●マスク着用
- ●手指消毒
- ●うがい
- ●ワクチン接種

抗菌薬の適切な使用

- ●医師や薬剤師の**指示どおり服用**する
  （用法・用量を守る）
- ●**自己中断しない**
  （症状が軽快したからといって
  途中で止めない）
- ●自己診断で、**過去に処方された薬や家族の薬を服用しない**





現在、県北管内で流行している感染症

R8年 インフルエンザ 定点当たり報告数

インフルエンザ Influenza 定点当り		定点当り	1.0未満	1.0～	10.0～	30.0～
定点当り	2026年					2025年
（報告数）	40週	41週	42週	43週	累計	合計
県内総数	8.31	10.90	9.04	9.94	-	-
	(399)	(523)	(434)	(477)	(17,169)	(28,990)
福島市	6.71	7.71	10.29	11.29	-	-
	(47)	(54)	(72)	(79)	(2,304)	(2,910)
県北	6.50	5.75	7.50	10.00	-	-
	(26)	(23)	(30)	(40)	(1,443)	(2,401)

表：福島県感染症発生動向調査報告より抜粋

県内では、インフルエンザが流行しています。風邪の症状がでたら、医療機関を受診してください。**似たような症状でも、原因となる細菌が異なる場合やウイルスによる場合も考えられます。**自己診断で、抗菌薬（抗生物質）を求めないようにしましょう。**ウイルスに抗菌薬は効きません。**

インスタフォローお願いします！



KENPOKU.KANSEN

発行日：令和 8年 11月 2日
発行元：福島県県北保健所医療薬事課
住所 〒960-8012 福島市御山町8－30
電話 024-534-4113